

## 2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

|               |                        |
|---------------|------------------------|
| 報告書提出年月日      | 2020年3月11日             |
| 研究・研修課題名      | 第12回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会 |
| 研究・研修組織名(所属)  | 栄養サポートセンター             |
| 研究・研修責任者名(所属) | 矢野 彰三                  |
| 研究・研修実施者名(所属) | 山岡 詩織                  |

|                 |  |
|-----------------|--|
| 成果区分            | <input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格<br><input type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果( ) |
| 該当者名(所属)        | 山岡 詩織(看護部)   |
| 学会名(会期・場所)、認定名等 | NST 専門療法士  |
| 演題名・認証交付元等      | 日本臨床栄養代謝学会認定   |
| 取得日・認定期間等       | 2020年取得見込み   |
| 診療報酬加算の有無       | <input checked="" type="checkbox"/> 加算有(栄養サポートチーム加算) <input type="checkbox"/> 加算無  |

## 目的及び方法、成果の内容

## ① 目的

2018年度から、当院がNST 専門療法士認定教育施設に認定された。合計40時間の実地修練を終了し、かつ日本静脈経腸栄養学会が認める学会、地方会、研究会への参加単位が30単位以上取得し、かつ試験に合格することでNST 専門療法士の資格取得が可能となった。栄養サポート実施加算は栄養管理に係わる所定の研修を終了した専任の医師、看護師、薬剤師、管理栄養士からなるNSTの存在が算定必須要件となっている。現在のところ当院には5名のNST 専門療法士が在籍しているが、看護師は2名のみであり、有資格の看護師は慢性的に不足している。

本申請による目的は、NST 専門療法士取得とする。これにより、当院における栄養療法の質の向上が見込める。また、診療報酬上も貢献度が高い。よって、資格取得のために第12回日本静脈経腸栄養学会中国四国支部学術集会への参加は必要である。

## ② 方法

2019年度の第12回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会に栄養サポートセンターから山岡詩織を代表で派遣し、発表する。

学会 : 第12回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会

会期 : 2019年8月10日(土)

会場 : ANAクラウンプラザホテル宇部

本学術集会に参加することにより、日本臨床代謝栄養学会(旧日本静脈経腸栄養学会)が定めるNST 専門療法士の受験資格である単位数30単位のうち5単位を取得可能である。

学術集会で収集した栄養管理に関する情報を自部署看護師と共有し、栄養管理の知識と質の向上を図る。さらに可能であれば、NSTメンバー及び栄養サポートに従事するリンクナースへ情報提供をおこなう。これにより病院全体の栄養管理の知識と質の向上を図る。

### ③ 成 果

受け持ち看護師として関わった「NST 介入により経口摂取へ移行することができた多発外傷患者の一例」の症例について下図の資料を用いて発表した。症例をまとめるにあたり、NST 介入方法や看護について振り返ることで、病態下の栄養法の実際や客観的に自分の看護を考察することができた。また個人だけでなく、自部署においてカンファレンスで事例を取り上げ、病態と栄養法・看護師の役割について共有することで、栄養に対する知識や意識向上に繋がったと考えられる。

本学術集会に参加し、他施設における症例や独自の栄養評価法、周手術期における栄養療法などの取り組みを知ることができたと同時に様々な視点があると感じた。得た知識や情報は自部署看護師の参加者と共有した。今後の NST 活動や看護において、柔軟な視点をもって栄養管理に関する意識向上のための方法を考えていくことが課題である。

本学術集会に参加することにより日本臨床代謝栄養学会認定の NST 専門療法士の資格取得に必要な単位を得て、資格取得見込みである。貴重な発表の機会を戴いたことに御礼申し上げます。

## NST介入により経口摂取へ 移行することができた 多発外傷患者の一例

島根大学医学部附属病院NST

山岡 詩織、陰山 美保子、井上 美香、久保田 明子、矢田 里沙子

間壁 史良、遠藤 進一、尾村 賢司、中村 健志、佐藤 恵美

金子一朗、飛田 博史、板倉 正幸、矢野 彰三

### 日本静脈経腸栄養学会中国支部会 利益相反開示

筆頭演者名：山岡 詩織

本演題発表に関連し、  
開示すべき利益相反関係に  
ある企業等はありません。

## 症例

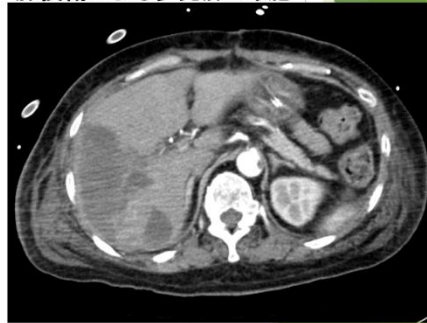
- ▶ 69歳女性
- ▶ 交通外傷による多発骨折、肝損傷のため緊急入院
- ▶ 入院時診断名: 肝・脾損傷、横行結腸損傷、硬膜下水腫、肺挫傷、血気胸、両側多発肋骨骨折、骨盤骨折、右肩峰骨折、右上腕骨頭骨折、左腓骨骨折
- ▶ 入院日 ダメージコントロール手術、ガーゼパッキング
- ▶ 第3病日 胆摘、閉腹
- ▶ 第12病日 肝一部壊死あり肝右葉切除
- ▶ 第17病日 胸水貯留・肺虚脱にて排痰困難なため気管切開術

## 画像

入院時 胸部CT  
多発肋骨骨折、右肺挫傷



第12病日 腹部CT  
肝損傷による多発肝のう胞

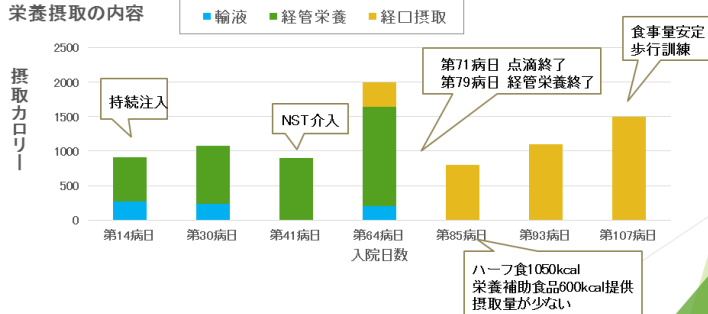


## 栄養に関する経過

- ▶ 第4病日 経管栄養開始リカバリー-SOY持続注入(1ml=1kcal)240kcal/day  
徐々に増量
- ▶ 第15病日 ペプタメンAF(1ml=1.5kcal)
- ▶ 第16病日頃より下痢持続
- ▶ 第19病日 リカバリー-SOY持続注入へ変更 水様便のため直腸用カテーテル使用
- ▶ 腹部膨満や嘔気などの消化器症状に加え、「お腹がはって苦しい、足がだるい」「夜が長くて怖い。眠れない。」気切後には「私は話せないからなにも聞けない、ただ横になってなすがままにされて人形みたい。」といった発言がみられ、**精神的な落ち込み・意欲の減退**と考えられた。
- ▶ 入院41病日 経管栄養が中断するなど必要量が摂取できず、低栄養状態持続するためNST介入となる
- ▶ NST介入時 身長148cm、体重70kg(入院時体重62kg BMI=28.3) 全身浮腫あり

## NST介入経過①

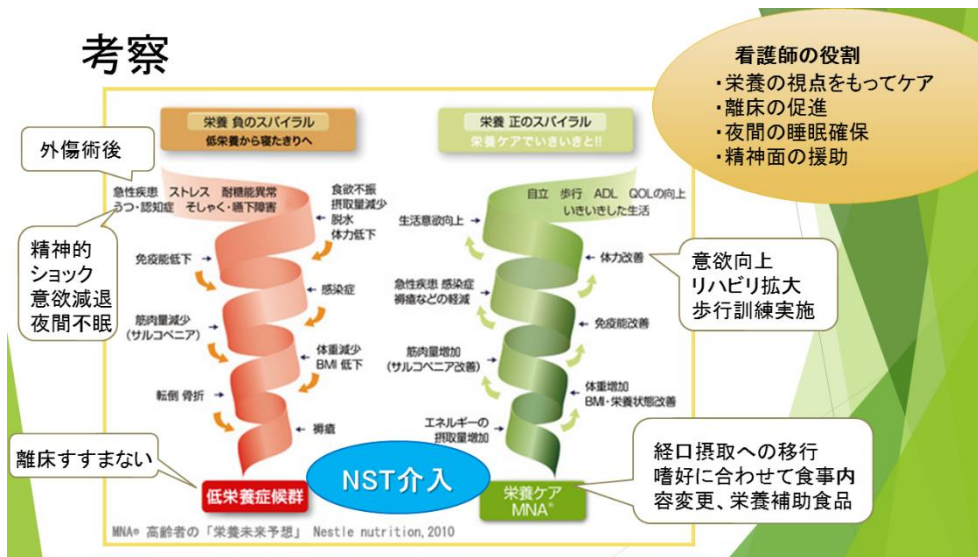
- ▶ 第41病日 NST介入 H-Bの計算式より1588kcal(活動係数1.1 ストレス係数1.2)
- ▶ 輸液、経管栄養、経口補助食品を組み合わせることで栄養投与をおこなった
- ▶ 嗜好や食へのこだわりを配慮し、食事内容や形態を変更した



## 経過②

|             | 第16病日<br>(肝切除5日後) | 第49病日<br>(NST介入1週後) | 第70病日<br>(輸液終了直前) | 第97病日<br>(転院前) |
|-------------|-------------------|---------------------|-------------------|----------------|
| リンパ球 (/μL)  | 380               | 1900                | 1770              | 1590           |
| TTR(mg/dL)  | 5.7               | 11.8                | 14.0              | 11.7           |
| TP(g/dL)    | 3.8               | 4.4                 | 4.9               | 5.4            |
| Alb(g/dL)   | 2.1               | 2.1                 | 2.1               | 2.3            |
| ChE(U/L)    | 100               | 78                  | 122               | 159            |
| BUN(mg/dL)  | 14.1              | 9.4                 | 23.4              | 9.2            |
| Crea(mg/dL) | 0.36              | 0.23                | 0.31              | 0.40           |
| 無機リン(mg/dL) | 1.9               | 4.1                 | 4.4               | 4.5            |
| CRP(mg/dL)  | 6.58              | 1.46                | 2.74              | 1.36           |

## 考察



**看護師の役割**

- ・栄養の視点をもってケア
- ・離床の促進
- ・夜間の睡眠確保
- ・精神面の援助

## まとめ

- ▶ 多発外傷により低栄養状態の患者に対し、NST介入をきっかけに経口摂取に移行でき栄養状態改善した症例を経験した。
- ▶ リハビリ・精神科リエゾンなどチームで連携介入することで、ADLの向上に繋がった。

